

令和4年度第3回 名古屋市被災地域支援本部会議

日時：令和4年12月8日（木）

14：00～14：15

方法：庁内 Web 会議システム

議 題

- 1 被災地への支援
- 2 陸前高田市との交流

1 被災地への支援

(1) 陸前高田市への職員派遣

ア 令和4年度の職員派遣

職 務 内 容	派 遣 所 属 名 (派 遣 人 数)
防 災 関 係 業 務	防 災 課 (1)
計	1 名

(注) 地方自治法第252条の17に基づく年間を通じた派遣

« 参考 » これまで陸前高田市に派遣した職員が貢献した主な事業

- ・ 財務システム及びデータの復旧
- ・ 庁内LANの構築、情報ネットワークの復旧
- ・ 被災家屋の調査、土地関係のデータの復旧
- ・ 戸籍・住民票、国民健康保険、生活保護、介護保険、家庭ごみ収集等の行政サービスの回復
- ・ 震災復興計画の策定
- ・ 農業・林道関係のデータの復元
- ・ 防災行政無線の復旧、地域防災計画の改訂
- ・ バス路線や鉄道等の交通政策の調整
- ・ 被災した保育所、子育て支援センター等の再開
- ・ 災害保健支援チームの総括、被災者に対する保健指導等の実施
- ・ 被災した小中学校の施設の応急復旧、建設
- ・ 水道事業の運営事務及び被災した水道施設の復旧
- ・ 被災中小企業の再開支援
- ・ 区画整理事業に係る調整・工事
- ・ 橋梁復旧・復興道路の整備

- ・高台への防災集団移転に係る調整・工事
- ・火災予防に関する技術指導等の実施
- ・新築家屋等に係る固定資産税の評価
- ・市民税等に係る申告相談受付、課税資料の処理
- ・埋蔵文化財の発掘調査
- ・新図書館の開設準備、運営面に係る指導
- ・観光交流・振興施策の推進

イ 陸前高田市への支援に対するネット・モニターアンケートの実施

本市が実施する職員派遣等の被災地支援活動について、市民の考えや評価を調査し、今後の被災地支援の参考にする。

区 分	内 容
調 査 テ ー マ	東日本大震災被災地支援活動について
期 間	令和4年8月26日（金）～9月5日（月）
対象モニター	調査対象500名に対して有効回収数462名 （有効回収率92.4%）
調 査 結 果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員派遣について、「賛成」が61.0%、「どちらかという賛成」が32.9% ・来年度以降の陸前高田市への職員派遣について、「陸前高田市の要望に即した職員派遣を継続した方がよい」が77.7%

ウ 令和5年度の職員派遣予定

(ア) 方針

- ・被災地の復興事業の状況に鑑み、引き続き陸前高田市に対して、要請のあった職務について職員を派遣し、支援を行う。
- ・被災地域支援本部事務局職員及び派遣元局の職員が定期的に被災地を訪問し、派遣職員との情報交換、意見交換の場を設けることにより、派遣職員を孤立させないようサポートを継続する。

(イ) 内訳

職 務 内 容	職 種	人 数
防 災 関 係 業 務	一 般 事 務	1 名

(注) 陸前高田市と名古屋市被災地域支援本部との調整に基づく現時点での見込み。年間を通じて同一職員による派遣を予定。

(2) 報告会等の開催

ア 市民向け講演会等

市民の理解と協力を得て、継続して被災地支援を行っていくとともに、市民の防災意識の高揚を図るため、被災地の現状や震災の教訓等を伝える取り組みを行っている。

(ア) 被災地派遣職員による講演会

内 容：被災地支援を通して培った知識や経験等について、体験談を交えながら、市民へ伝えるもの。

場 所：8区（令和4年11月30日時点。今年度中に全区で実施予定。）

(イ) パネル展示等各種広報

- ・港防災センターでのパネル常設展示
- ・市公式ウェブサイトへの掲載

イ 職員向け報告会

報告会を開催し、被災地支援活動を通じて得られた経験等を伝えることで、行政組織としての防災力の向上につながる取り組みを行っている。今年度は、より多くの職員が聴講することができるよう、被災地派遣職員による報告会のコンテンツを庁内イントラネットへ掲載する形式で実施した。

期 間：令和4年9月26日（月）～11月17日（木）

受講者数：224名

ウ 小中学校等の防災教育における講師の派遣

陸前高田市へ派遣した職員ならびに現地の語り部を小中学校・特別支援学校へ講師として派遣し、東日本大震災の教訓等を伝え、子どもたちの防災意識の向上を図る取り組みを実施した。

実施校：9校（令和4年11月30日時点）

※ 令和5年3月末までにさらに6校実施予定あり。

(3) 陸前高田市への医療支援

名古屋市立大学看護学部の推薦入試に設置された陸前高田市枠の卒業生に対してフォローアップを行うことで、看護の中核的人材の育成を図り、陸前高田市の地域医療を支援する。

ア 内容

陸前高田市が定めた「名古屋市立大学看護学部陸前高田市枠卒業生登録制度要綱」に基づき、就職から2年目以降の卒業生に対して、名古屋市立大学病院における実習や実習結果に基づく病院職員との意見交換等を実施する。

イ 時期

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、実施可能な時期について関係病院等と調整中。

ウ 対象者

名古屋市立大学看護学部陸前高田市枠卒業生（人数調整中）

《参考》

名古屋市立大学看護学部陸前高田市枠の概要

区 分	内 容
対 象 者	陸前高田市に住民登録を有し岩手県気仙地区内の高等学校卒業の者
期 間	平成25年度入学～平成29年度入学の5年間
支 援 内 容	・ 入学検定料及び入学料、4年間の授業料を全額免除 ・ 名古屋市立大学が宿舍を斡旋し、家賃の一部を名古屋市と名古屋市立大学が負担
卒 業 生	10名

(4) 被災者の受け入れ支援

ア 本市受入被災者数

令和4年10月31日現在

区 分	世 帯 数	人 数
市 営 住 宅	0 世帯	0 名
県 営 住 宅	1	2
民間住宅等	1 2 4	2 9 2
計	1 2 5	2 9 4

(注) 市営住宅、県営住宅については、東日本大震災受入被災者のための目的外使用許可件数（無償）。

イ 令和4年度における各局の支援実績

令和4年10月31日現在

所 管 局	支 援 内 容	実 績
財 政 局	税 務 証 明 申 請 に 係 る 手 数 料 の 免 除	1 2 件
ス ポー ツ 市 民 局	住 民 票 の 写 し 等 の 手 数 料 の 免 除	2 7 件
	東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごやの運営	相 談 1 4 5 件
健 康 福 祉 局	介 護 保 険	保 険 料 災 害 減 免 等 2 件

« 参考 » これまでの各局の主な支援実績（累計）

所 管 局	支 援 内 容	実 績
防災危機管理局	定期便による情報提供	157回
財 政 局	税務証明申請に係る 手数料の免除	422件
スポーツ市民局	女性のための総合相談	42件
	住民票の写し等の 手数料の免除	1,148件
	東日本大震災被災者支援ボラン ティアセンターなごやの運営	相談4,271件 交流会66回、1,767名
観光文化交流局	外国人相談	9件
環 境 局	リユース（再使用） 家具の提供	127世帯、261個
健康福祉局	生活福祉資金等の貸付	16件
	生 活 保 護	25件
	介 護 保 険	保険料災害減免等40件
	障害福祉サービス、 自立支援医療等に関する相談	54件
	予 防 接 種 の 受 付	449名
	国民健康保険、後期 高齢者医療、国民年金	保険料災害減免等364件

所 管 局	支 援 内 容	実 績
子 ども 青 少 年 局	保 育 所 へ の 入 所	17園、25名
	妊 婦 及 び 乳 幼 児 の 健 康 相 談 と 健 康 診 査 等	母子健康手帳交付等40件 乳幼児健康診査52名
住 宅 都 市 局	市 営 住 宅 等 の 提 供 〔風呂釜、コンロ、毛布、 照明器具、エアコンの提供〕	入居決定145世帯、395名 〔風呂釜 70個 コンロ 113個 毛 布 232枚 照明器具 114個 エアコン 52台〕
緑 政 土 木 局	東 山 動 植 物 園 へ の 無 料 招 待	9回、282名
教 育 委 員 会	小 学 校 ・ 中 学 校 ・ 高 等 学 校 ・ 幼 稚 園 等 へ の 転 入 学 の 人 数	109校（園）、187名
	就 学 援 助 （ 認 定 件 数 ）	63件
交 通 局	マ ナ カ の 進 呈	271世帯、457人

(注) 実績は平成23年3月11日から令和4年10月31日までの
延べ総数。

2 陸前高田市との交流

被災地支援を契機として広がってきた交流について、これまでの取り組みに加え、市民交流団の派遣や「奇跡の一本松」後継樹の植樹等を通じて、友好都市である陸前高田市との交流を一層推進する。

(1) 市民の交流

ア 市民交流団の派遣

防災、スポーツ、産業、文化の4つの分野における市民の活動を通じて、両市の市民や団体の親交を深めるため、陸前高田市へ市民交流団を派遣している。

区 分	時 期	主な内容
防 災 交 流 (防災危機管理局)	令和4年 11月11日(金)～ 11月13日(日)	・現地関係者による講話 ・大学生同士による防災 ワークショップ
スポーツ交流 (スポーツ市民局)	令和5年 2月11日(土)～ 2月12日(日) (予定)	・サッカーの交流試合
産 業 交 流 (経済局)	令和4年 10月、12月(予定) 令和5年2月(予定)	・「食」を通じた交流
文 化 交 流 (観光文化交流局)	令和5年 2月(予定)	・交流踊り曲等の練習・披露

イ 名古屋市及び陸前高田市市民交流事業補助制度

両市における市民交流の促進に資することを目的として、交流事業を実施する団体に対する補助制度を実施した。

補 助 金 額：上限10万円

交付団体数：実績なし(令和4年11月30日時点)

(2) 子どもたちの交流

平成24年に陸前高田市と名古屋市の両教育委員会において締結した「絆協定」により、両市子どもたちによる相互訪問等を通して交流を深めるとともに、両市の将来のまちづくりを担う人材の育成を図る。

また、令和4年度で交流10年の節目を迎えることから、これまでの事業参加者（以下、「センパイ」という。）も中学生とともに陸前高田市を訪問することにより、生徒たちの防災学習を充実させつつ、両市の絆を一層強め、防災人材を育成する取り組み「絆交流 with S（センパイ）プロジェクト」を実施した。

ア 本市の中学生による陸前高田市訪問

区 分	内 容
実 施 期 間	令和4年8月19日（金）～8月21日（日）
訪 問 者 数	37名 千種区2校、東区1校、北区2校、西区2校、中村区2校、中区1校、昭和区1校、瑞穂区3校、熱田区1校、中川区4校、港区3校、南区3校、守山区3校、緑区4校、名東区3校、天白区2校 より各1名
主 な 行 程	<p><1日目> 釜石いのちをつなぐ未来館の見学</p> <p><2日目> 東日本大震災津波伝承館の見学 陸前高田市長からの講話 両市の中学生とセンパイの交流</p> <p><3日目> かき養殖体験、震災遺構の見学</p>
生徒の主な声	<ul style="list-style-type: none"> ・「震災は恐ろしいもの」というあいまいなイメージが「震災はいつでもどこでも隣り合わせ、だからこそ防災意識を高めることが大事だ」という具体的なものになった。 ・たくさんの方々の話の中で全員共通して仰っていたことは「人とのつながりを大切に」ということだった。日頃から周りの人に感謝の気持ちを伝えていきたいと思った。 ・陸前高田市長のお話が心に残った。後悔がないように、毎日があたり前ではないことを忘れず、大切に過ごしたい。

イ センパイによる陸前高田市訪問

区 分	内 容
実 施 期 間	令和4年8月19日（金）～8月21日（日） ※ 中学生による陸前高田市訪問と同日程
参 加 者 数	84名（うち、オンラインによる参加2名） ※ 平成25年度から令和2年度の絆交流参加者
主 な 行 程	<1日目> 宮城県内の防災学習施設の見学・学習 <2日目> 陸前高田市のセンパイが市内を案内 陸前高田市長からの講話 両市の中学生とセンパイの交流 <3日目> 震災遺構の見学
参 加 者 の 主 な 声	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の時に参加した当時に比べて明らかに復興が進んでいて、人々の力強さを感じた。 ・ 「震災が起きた地域という悲しいイメージではなく観光などでもっと楽しく訪れてほしい」という言葉を聞いて、現地の方の意識が変わってきていることを感じ取った。 ・ 南海トラフ地震が来ると言われているこの名古屋で一体どれほど準備ができているのかと危機感を感じ、自分のできることは何か考えるようになった。

ウ 陸前高田市の中学生による名古屋市訪問（予定）

区 分	内 容
実 施 期 間	令和5年1月10日（火）～1月12日（木）
訪 問 者 数	20名
主 な 行 程	<1日目> 中学生交流会 大須商店街見学 <2日目> 職場体験等 <3日目> 「奇跡の一本松」後継樹見学 センパイとの交流等

(3) 産業交流

ア 陸前高田市で開催されるイベントへの出展

陸前高田市産業まつりにおいて、なごやめしの提供を行う名古屋市ブースを出展し、陸前高田市民や地元商工業者との交流を図った。

イ 本市で開催されるイベントへの出展

名古屋まつりに出展を行い、陸前高田製品の販売やPRを実施した。

(4) 文化交流

ア 市民美術展等での相互展示

両市で開催されている市民美術展等において、両市の市民の優秀作品を隔年で相互に展示し、交流を図るもの。今年度は名古屋市で開催される市民美術展において、陸前高田市で開催された市民芸術祭の優秀作品を展示した。

期 間：令和4年11月22日（火）～11月27日（日）

展示作品：名古屋市民美術展の優秀作品とあわせて陸前高田市民芸術祭の優秀作品を展示。

イ イベントにおける郷土芸能の披露（予定）

令和5年3月にオアシス21で実施予定の「絆の日」プレイベントにおいて、陸前高田市の芸能団体を招待し、名古屋市民の前で郷土芸能を披露する。

※ 13ページに再掲

(5) 「絆の日」に関する取り組み

「奇跡の一本松」後継樹の東山動植物園への植樹を契機として定めた「絆の日」について、令和5年3月23日を中心として交流事業及び防災啓発事業を実施する。

ア 本市における主な取り組み（予定）

区分	内 容	場 所
交流事業	【「絆の日」イベント（3月18日実施）】 ・陸前高田市出身アーティストによる被災松カホンの演奏等 ・現地新聞社代表による講演 ・市民交流団参加者による活動報告 ・交流記念踊り、陸前高田市伝統芸能の披露 ・陸前高田物産及びSDGsブース出展 ・「奇跡の一本松」の根の展示 ・事業者等と連携したブース出展 ・陸前高田市との交流PR動画放映	オアシス21
	【「絆の日」記念交流イベント（3月23日実施）】 ・「奇跡の一本松」後継樹のライトアップ ・消防音楽隊による被災松鍵盤ハーモニカ演奏等 ・現地NPO団体代表による講演 ・植物園内交流ガイドツアー ・陸前高田物産ブース出展 ・現地関係者による絵画・写真展示 ・友好都市交流パネル展示	東山動植物園
	・陸前高田物産ブース出展	名古屋城
	・三陸産食材を使用した献立の提供	小中学校等
防災啓発事業	・友好都市陸前高田市との「絆の日」PRパネル展示	区役所等
	・商業施設における「絆の日」啓発ポスター掲示	市内イオン各店舗
	・「絆の日」企画展	港防災センター
	・防災クイズラリー	水の歴史資料館
	・「震災と防災について」の展示	富田図書館

« 参考 »

陸前高田市における主な取り組み（予定）

- ・ 「奇跡の一本松」のライトアップ
- ・ 市役所庁舎における「絆の日」パネル展示
- ・ SNS等による名古屋市の「絆の日」に関する取り組みの紹介

(6) 東日本大震災津波伝承館と連携したオンライン授業

本市の小中学校等における防災教育の充実を図ることを目的として、東日本大震災津波伝承館が所有するコンテンツについて現地解説員から直接学び、防災意識を高めるオンライン授業を実施する。

実施校	実施日	参加者
万場小学校（中川区）	令和4年9月 7日（水）	6年生66名
本城中学校（南区）	令和5年3月16日（木） （予定）	1年生168名 2年生187名

(7) 防災担当職員の現地派遣研修

各区の防災担当職員や防災危機管理局職員を陸前高田市へ派遣し、陸前高田市民及び職員との交流等を通じて学んだ地域防災の知識や教訓等を本市の防災対策に活用するとともに、防災人材の育成・強化を図った。

区 分	時 期	人数	主な内容
区 職 員	令和4年 11月11日(金)～ 11月12日(土)	6名	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の行政関係者による講話・質疑 ・東日本大震災津波伝承館や震災遺構等の視察
防 災 危 機 管 理 局 職 員	令和4年 10月31日(月)～ 11月2日(水)	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅体験館における宿泊体験 ・東日本大震災津波伝承館や震災遺構等の視察
	令和4年 11月9日(水)～ 11月11日(金)	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田市職員との交流ワークショップ ・現地市民等へのインタビュー